



西尾いきものふれあいの里だより

2月号

2026.2.1 発行

さとやま

2月の里といきもの



今年の1月は、大きな寒波の合間に3月並みの気温になる日もあり、着るものに迷うこともありました。長期予報では、2月の気温は平年並みということです。気温は年によって変化がありますが、変わらないのは日照時間と太陽高度です。立春（2月4日ごろ）を過ぎると、日が少しずつ長くなり、太陽の光も力強さを増してきます。これを「光の春」と呼び、2月上旬から中旬にかけて、始まるとされます。これに反応し、まだ風は冷たくても、鳥がさえずり始めたり花が咲いたりします。

前回ご紹介した、ハンノキ広場の**カワラハンノキ**は、一般の花というイメージではありませんが、雄花の集まりが長く伸び、花粉を風に飛ばし、雌花で受粉します。このような花を風媒花と呼び、昆虫がいなくても受粉できます。雄花に触れると花粉がホコリのように出てきます。

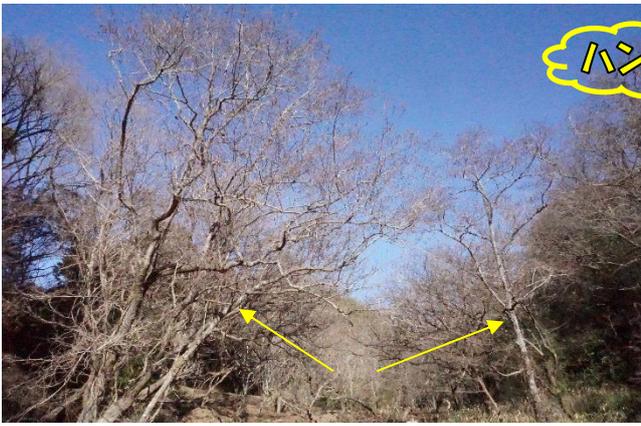


カワラハンノキ



←雌花の集まり

←雄花の集まり



近くにあるハンノキもよく似た花をつけます。どちらもハンノキ科の落葉高木ですが、ハンノキの方が樹高が高いため、花を直接見るのは難しいです。

中央広場では、「まず咲く」から名がついたマンサク科の落葉小高木マンサクも満開になります。リボンのような4枚の花弁のある花がいくつか房状につきます。



庭木や公園樹として広く利用され、本来は黄色ですが、里では赤色の品種が数株植えられています。小川の反対岸の私有地には、黄色のものが見つかります。

花が咲き終わると、少し遅れて新芽が顔を出し、やがて柔らかい若葉が広がります。葉の陰では、花の基部にある子房がふくらんで、果実になりますが、硬くて小さなカプセルのような形をしていて、夏から秋にかけてゆっくり成熟していきます。果実が熟すと、乾燥によって裂けて、中の黒くてツヤのある種子を勢いよくはじき飛ばします。この仕組みを「裂開散布」といい、離れたところへ分布を広げることができます。

里では受粉率が悪いのか、今まであまり実が見つかりませんでした。昨年12月に、はじけた後の殻をいくつか見つけました。マンサクは基本的には昆虫が受粉を助ける虫媒花ですが、花粉の量が多いため、風によっても受粉されるそうです。昨春はどちらかの条件が良かったのかもしれません。まだ残っているかも、探してみてください。



2月はこんな生きものも見られます

日当たりのよいところでは様々な草花が見られます。

よく見かけるナデシコ科の**コハコベ**は、花弁が10枚に見えますが、深く切れ込んでいて本当は5枚です。

湿った場所では、アブラナ科の**タネツケバナ**の花が咲きます。田植え前に種籾(たねもみ)を水に漬ける頃に咲くことから「種漬花」と呼ばれるようになりました。

シソ科の**ホトケノザ**は、春の七草の「仏の座」とは別の種類です。



オオバコ科の**オオイヌノフグリ**は1日花で、夕方にはしぼんで落ちてしまいます。

これらの草花は、秋に発芽し、春に開花する越年草ですが、暖かければ冬でも花を咲かせます。

下旬頃には、サブゾーンの長円寺などで、モクレン科の常緑高木、**オガタマノキ**の花が咲きます。足元に白っぽく根元が赤い花弁が落ちていたら、見上げてみてください。

トンボの里などの水中では、アカガエルより遅れて、**ヒキガエル**のひも状の卵塊を見つけることができます。

少しずつ春の兆しが見えてきた里を散策してみてください。

12月の行事紹介



12月21日(日)、毎年人気の講座「正月飾りを作ろう」を開催しました。前日の雨も上がり、支障なく作業ができました。作業では、里山から切り出した竹を三本束ねて手作りの専用工具で斜めに切り、切った竹を一回り大きな竹の器に据付けます。その隙間に緑のスポンジを詰めミニ門松の土台を作り、松、梅、南天、千両で思い思いの飾り付けをしました。門松の豆知識も教えてもらい、参加者は「竹を切るのはとても難しかったけど素敵な門松ができて感動した」と大満足でした。

2月の行事予定

※2回以上受講した方には、「竹炭」をプレゼントします。

7日(土)	竹炭を焼こう I (竹切り他)	20名	AM 9:30~11:30	神本 晃 河野 俊治
9日(日)	竹炭を焼こう II (窯炊き)	20名	AM 9:00~11:00 (午後も参加可能)	
15日(日)	竹炭を焼こう III (窯出し)	20名	AM 9:30~11:30	

内容 : 1日目は、竹林の整備のため、竹を切り出し、窯に合わせて竹を切り、筋を取り、窯に詰めます。

2日目は、窯に火を入れ、温度測定をしながらムラなく焼きます(約7時間)。午後は自由参加です。

3日目は、窯から竹炭を取り出します。どんな竹炭ができるか楽しみます。

22日(日)	お花炭を焼こう	20名	AM 9:30~11:30	判治 和征
--------	---------	-----	---------------	-------

内容 : 花炭は、木の実や葉などの形をそのまま残して炭にしたものです。里山で採取した木の実や様々な自然の材料を空き缶に敷き詰めて焼きます。焼き上がった花炭は、竹を割った器に飾りつけ素敵なインテリアになります。

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課